

ビジネス にほんご

商务日语精读

中级

主编 唐向红 刁鹏鹏

主审 方爱乡



华东理工大学出版社
EAST CHINA UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY PRESS

ビジネス
にほんご

商务日语精读

第2版

主编 唐向红 刁鹏鹏

主审 方爱乡



华东理工大学出版社

EAST CHINA UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY PRESS

图书在版编目(CIP)数据

商务日语精读(中级)/唐向红,刁鹞鹏主编.
上海:华东理工大学出版社,2009.9
ISBN 978-7-5628-2592-0
I. 商... II. ①唐... ②刁... III. 商务-日语-高等学校-
教材 IV. H36
中国版本图书馆 CIP 数据核字(2009)第 129677 号

商务日语精读(中级)

.....

主 编/ 唐向红 刁鹞鹏
主 审/ 方爱乡
策划编辑/ 王耀峰
责任编辑/ 常海霞
责任校对/ 金慧娟
封面设计/ 陆丽君
出版发行/ 华东理工大学出版社
地 址: 上海市梅陇路 130 号, 200237
电 话: (021)64250306(营销部)
(021)64251904(编辑室)
传 真: (021)64252707
网 址: www.hdlgpress.com.cn
印 刷/ 上海崇明裕安印刷厂
开 本/ 710mm×1000mm 1/16
印 张/ 15.75
字 数/ 303 千字
版 次/ 2009 年 9 月第 1 版
印 次/ 2009 年 9 月第 1 次
印 数/ 1-4000 册
书 号/ ISBN 978-7-5628-2592-0/H·850
定 价/ 32.00 元

(本书如有印装质量问题,请到出版社营销部调换。)

前 言

本教材是以国际商务日语专业大学2年级的学生为对象而编。作为国际商务日语的精读教材,本教材的重点放在更广泛、更深入地了解和熟悉日本的各个方面,并在形式和内容上有所创新。除32篇课文外,还增加了“身だしなみの基本”、“言葉遣いの基本”、“挨拶”、“名刺の交換”、“電話対応”、“接客”、“電子メールの基本”、“食事のマナー”、“付き合いのマナー”、“酒席での付き合い”、“席次のマナー”、“ゴルフでの付き合い”、“結婚式(招く場合)”、“弔辞”、“お見舞い”、“贈り物”等16篇“ビジネスマナー”,以及“スポーツ”、“空港”、“ホテル”、“世界名人”、“事務用品”、“映画・名作”、“世界企業・ブランド名”、“コンピューター”、“病院”、“税務”、“会計”、“法律”、“銀行”、“証券”、“保険”、“貿易”等16项“追加用語”,每课后面还加入了“課外読物”、“豆知識”、“練習”,旨在使学生对商务日语知识有更多地了解。其中,本文题材广泛,包括日本的文化、习俗、经济、政治等内容,信息量适度,同时也注意反映新时代的生活气息;ビジネスマナー介绍了诸多场合的商务礼仪,为学生今后工作打下基础;追加用語的目的在于使学生在有限的时间、范围内最大限度地学习和掌握非常实用的词汇,以达到扩大视野、丰富知识的目的;課外読物补充一些与课文相关的内容,加深对课文的理解;豆知識以风趣的语言介绍日本的方方面面,使学生在学语言的同时,也能对日本和日本人有一个比较充分的了解;練習内容充分体现了“启发式”和“以学生为本”的教学原则,形式不拘一格,旨在培养学生在外语学习中的活性思维能力,调动其积极参与的意识。

另外,为帮助学生掌握、消化所学习的内容,在每课后面的练习问题里设了提问及关键句型造句练习。相信本教材也会对日语爱好者有所帮助。

本教材在汇集、编写过程中主要参阅了日本国际研究所大森和夫先生的文章,以及有关方面的资料,在此一并表示最诚挚的谢意。

由于编者水平所限,本教材难免有这样或那样的缺点和不足,真诚希望日语界各位同仁和广大同学批评、指正,以便我们在今后的工作加以改进、完善。

编 者

2009年5月

目 次

第一課	日本の四季——春・秋	1
	ビジネスマナー1 身だしなみの基本	9
第二課	相 撲	11
	追加用語 1——スポーツ	17
第三課	日本の教育制度と学歴社会	18
	ビジネスマナー2 言葉づかいの基本	22
第四課	「タテ」社会とぼくの仕事ぶり	24
	追加用語 2——空港	30
第五課	「年中行事」と「祭り」	31
	ビジネスマナー3 挨拶	37
第六課	伝統的な日本文化——華道・茶道	38
	追加用語 3——ホテル	44
第七課	栄 養	45
	ビジネスマナー4 名刺の交換	49
第八課	鑑真和上——文化交流の先駆者	51
	追加用語 4——世界名人	57
第九課	日本の家庭事情	58
	ビジネスマナー5 電話応対	62
第十課	無言化社会の中で	66
	追加用語 5——事務用品	71
第十一課	畳と床	72
	ビジネスマナー6 接客	77
第十二課	割られたガラス	79
	追加用語 6——映画・名作	85
第十三課	向かい合いの心理	86
	ビジネスマナー7 電子メールの基本	91
第十四課	ローズマリーの旅	92
	追加用語 7——世界企業・ブランド名	98
第十五課	新 聞	99
	ビジネスマナー8 食事のマナー	104

商务日语精读(中级)

第十六課	情報化社会の功罪……………	105
	追加用語 8——コンピューター……………	110
第十七課	医療保険制度と社会福祉……………	111
	ビジネスマナー9 付き合いのマナー……………	116
第十八課	少子高齢社会……………	117
	追加用語 9——病院……………	122
第十九課	環境保護と思い遣り……………	123
	ビジネスマナー10 酒席での付き合い……………	128
第二十課	財 政……………	129
	追加用語 10——税務……………	133
第二十一課	日本人の行動様式と集団志向……………	134
	ビジネスマナー11 席次のマナー……………	140
第二十二課	日本経済の歩み……………	142
	追加用語 11——会計……………	148
第二十三課	小さな出来事……………	150
	ビジネスマナー12 ゴルフでの付き合い……………	155
第二十四課	日本政治の仕組み……………	156
	追加用語 12——法律……………	162
第二十五課	本当の顔……………	163
	ビジネスマナー13 結婚式(招く場合)……………	169
第二十六課	具象以前……………	170
	追加用語 13——銀行……………	175
第二十七課	おとぎ話とSFの間……………	176
	ビジネスマナー14 弔事……………	181
第二十八課	挑 戦……………	183
	追加用語 14——証券……………	188
第二十九課	10 秒の空白——社会を見る目……………	189
	ビジネスマナー15 お見舞い……………	195
第三十課	日本語の表現——慣用句……………	196
	追加用語 15——保険……………	201
第三十一課	どうも……………	203
	ビジネスマナー16 贈り物……………	208
第三十二課	現代の人間関係……………	209
	追加用語 16——貿易……………	216
	言葉一覧表……………	218

第一課

日本の四季——春・秋

日本は四季の変化に富んだ国です。春、夏、秋、冬の季節に応じて、自然の美しさは移り変わり、人々の生活も心も変化していきます。

日本の春は、3、4、5月の時期をいいます。

生物の活発な活動が始まる時です。夜の時間より昼が長くなり、だんだん暖くなるのを感じます。草木は芽生え、動物は冬眠から覚めます。種を蒔く時でもあり、たくさんの花が咲き競う季節でもあります。

春の語源は、草や木の芽が出る、万物発生の時という意味から「発」または「張る」からきていると言われています。

3月は弥生、4月は卯月、5月は皐月という別の呼び名もあります。

東洋の暦では、立春(2月4日頃)から、立夏(5月5日頃)前までを春とし、俳句などではこの暦に従い、実際の感覚より、早く春を感じ取りうたっています。

最初に春を知らせてくれるのが、春一番です。初めて吹く南寄りの強い風のことです。この風で、木の芽や花のつぼみがふくらみ始めます。

3月3日は、女の子の幸せを願う「雛祭り」です。ひな段に、昔の宮廷の服装を真似た着物を着せた小さな人形(雛人形)、菱餅(赤、白、緑の三色の餅を菱形に切ったもの)、白酒を飾ります。一緒に桃の花を飾ることから、桃の節句とも言います。

男の子の成長を願うのは、5月5日の「端午の節句」です。武士の人形を飾り、鯉のぼり(布や紙で鯉の形に作ったもの)を立て、柏餅やちまきを食べて祝います。この日、菖蒲の葉を入れたお風呂に入ると、邪気を追い払い、病気をしないといわれています。5月5日は、子供の人格を重んじ、子供の幸福を願うという趣旨から「子供の日」と決められ、国民の祝日です。

春は、卒業と入学という、学校の大きな行事がある季節です。日本では、学校が始まるのは4月です。小学校、中学校、高校、大学のそれぞれ1年生の入学式は4月上旬に行われます。教育課程をすべて終えた児童、生徒、学生の卒業式が行われるのは3月です。学校での出会いと別れは、人の一生の中で大きな比重を占めます。

商务日语精读(中级)

日本で春の花といえば桜です。長い冬が終わり、春を謳歌する桜の花は、多くの日本人が好む花です。最も南の沖縄地方では2月に咲き始めますが、大体3月下旬から5月上旬の間に、南の九州から北の北海道に向かって順に開花していきます。これを「桜前線が北上する」といいます。桜の花は咲いている期間が短く、1週間ぐらいで散ってしまいます。終わりの頃は、花吹雪と言って、花びらが吹雪のように舞い、桜の散り際の美しさは格別です。桜の開花時期には、職場の仲間や友人達と公園などに出かけ、桜の木の下に敷物を敷いて、お酒を飲んだり、ご馳走を食べたり、歌を歌ったり、踊ったりして、賑やかに楽しい一時を過ごします。これが「お花見」です。

お茶の産地では茶摘みの最盛期を迎え、海辺では、家族連れがはまぐり、あさりなどの貝を取る潮干狩りを楽しみます。柔らかな日差しの下で、すべてが明るく、和やかで、晴れ晴れと美しく見えるのがこの季節です。

9、10、11月が秋です。残暑が続くことがあっても、澄み渡った大空に爽やかな大気が漲ります。児童、生徒、学生は長い夏休みが終わり、9月から新学期です。

植物が黄熟すること、つまり稲が黄色く実って田畑が明るく見える、草木が紅葉して赤くなる「あかる」「あかき」が秋の語源といわれています。

9月は長月、10月は神無月、11月は霜月という別の呼び名もあります。

秋を代表するものは、紅葉と赤とんぼ、そして秋刀魚の匂いと虫の声です。種を蒔く春に対して、秋は収穫の時期です。穀物の豊作に感謝する秋祭りが各地で行なわれます。実りの秋、食欲の秋、芸術の秋、スポーツの秋、読書の秋でもあり、多彩な催しがあります。

9月は台風襲来の時期であり、農家の人達は農作物の収穫を前に、この時期が無事に過ぎることを願います。また、1923年9月1日に東京を中心とした関東地方に大地震(関東大震災)が起こり、大きな被害にあったことから、この日各地で防災訓練が行なわれます。

9月15日は敬老の日で、国民の祝日です。社会の高齢化が進む中で、国民が老人の長寿を祝い、老人福祉とお年寄りを敬う精神を持ち、それを実行するために、この日から約1週間、各地で敬老会、老人慰安会、老人ホーム慰問などが行なわれます。

月は四季それぞれに趣のあるものですが、月といえば秋の月、中でも9月15日頃の月(中秋の名月)は特に明るく、澄んで美しく、人々は月見の宴を楽しみます。すすきの穂を飾り、団子や里芋、豆、柿、栗など季節の食べ物を供えて、お月様を愛でる風習が広く行なわれています。美しい月の下で涼しい風に吹かれ、虫の音を聞きながら、歌会や句会が開かれます。

10月10日は「体育の日」です。1964年に開かれた東京オリンピックの開会式の日を記念し、健康な心身の養成・促進を目的として定められた国民の祝日です。各地で種種のスポーツ大会が開かれ、秋季の国民体育大会(国体)もこの時期に開催されます。

高い香り、さまざまな美しい色、優雅な形の菊の花は秋を飾る代表的な花です。皇室の紋章にもなっています。奈良時代に中国から渡来したものです。江戸時代に庶民の間に広く愛用されるようになり、薬用から観賞用になり、食用としても親しまれています。

11月3日は「文化の日」です。1946年のこの日、戦争放棄を定めた日本国憲法が公布され、自由と平和を愛し、文化を進める国民の祝日として1948年に「文化の日」が制定されました。この日、文化の発展に功労のあった人に文化勲章が贈られます。いろいろな芸術、文化の行事や、文化財保護を強調する活動も行われます。

11月15日を中心に、数え年で3歳と5歳の男の子、3歳と7歳の女の子のお祝いをします。神社にお参りして、これまで成長したことを喜び、今後の健やかな成育をお祈りする「七、五、三の祝い」です。

11月23日は「勤労感謝の日」で、国民の祝日です。勤労の尊さを大切に、穀物や野菜や果物などに恵まれたことを、お互いに祝福し、感謝する日です。秋もそろそろ終わりに近づき、冬を迎える準備に入ります。

言葉

芽生える〔めばえる〕	发芽, 出芽	はまぐり	文蛤
咲き競う〔さききそう〕	盛开, 竞相开放	あさり	蜆子
弥生〔やよい〕	(文) 阴历三月	潮干狩り〔しおひがり〕	赶海
卯月〔うづき〕	(文) 阴历四月	澄み渡る〔すみわたる〕	晴朗, 万里无云
皐月〔さつき〕	(文) 阴历五月	漲る〔みなぎる〕	充满, 洋溢, 弥漫
雛祭り〔ひなまつり〕	日本三月三日女孩节	黄熟〔おうじゅく〕	(稻、麦) 成熟
菱形〔ひしがた〕	菱形	長月〔ながつき〕	(文) 阴历九月
白酒〔しろざけ〕	白酒	神無月〔かんなづき〕	(文) 阴历十月
柏餅〔かしわもち〕	槲树叶包的年糕	霜月〔しもつき〕	(文) 冬至月, 阴历十一月
菖蒲〔しょうぶ〕	(植物) 菖蒲	秋刀魚〔さんま〕	秋刀鱼
花吹雪〔はなふぶき〕	飞雪般的落花	穀物〔こくもつ〕	谷物, 粮食
茶摘み〔ちゃつみ〕	摘茶, 采茶	襲来〔しゅうらい〕	来袭, 袭来
		防災〔ぼうさい〕	防灾, 防止自然灾害

商务日语精读(中级)

敬う〔うやまう〕	尊敬, 尊重	歌会〔うたかい〕	歌会
慰安会〔いあんかい〕	慰劳会	句会〔くかい〕	作“俳句”的集会
趣〔おもむき〕		養成〔ようせい〕	培训, 培养
旨趣, 感觉, 情形; 情趣, 风趣		風雅〔ふうが〕	风雅, 雅致
澄む〔すむ〕	清澈, 澄清, 清晰	紋章〔もんしょう〕	(家族或团体的) 徽章
宴〔うたげ〕	(文) 宴, 宴会	渡来〔とらい〕	(由国外) 渡来, 进口
穂〔ほ〕	穂	勲章〔くんしょう〕	勋章
里芋〔さといも〕	芋头	文化財〔ぶんかざい〕	文化遗产, 文化财产
栗〔くり〕	栗子	数え年〔かぞえとし〕	虚岁
供える〔そなえる〕	(给神佛) 上供	健やか〔すこやか〕	健壮
愛でる〔めでる〕	爱, 怜爱, 欣赏	尊い〔とうとい〕	尊贵的, 高贵的

練習問題

一、次の質問に答えなさい。

- 「ひな祭り」と「鯉のぼり」を簡単に述べなさい。
- 花見とはどんなことですか。
- 日本の春の景色を簡単にまとめなさい。
- 春と秋の語源を説明しなさい。
- 敬老の日にはどんなことが行われますか。
- 月見とはどんなことですか。
- 秋の行事をまとめなさい。

二、次の から適切なものを選んで、その記号を()の中に記入しなさい。

a おかげで b せいで c から d ために

- タバコの火の不始末()大火事になった。
- ワープロの()最近の学生はろくに漢字を覚えていない。
- ワープロの()文書作成が速くなった。
- その学生は貧しさの()進学をあきらめなければならなかった。

a 応じて b よると c 沿って d 基づいて

- 気象庁の報告に()この夏は非常に暑かったそうだ。
- 社員はみんな決められた方針に()準備を進めた。

7. 与野党党首会談の合意に()法案を作成する。
8. それぞれ能力に()働き、労働に()分配する。

三、次の言葉や文型で短文を作りなさい。

1. ～に応じて
2. ～に向かって
3. ～として

課外読物

季節感

日本は四季の移り変わりがとてもはっきりしており、季節感が日本人の生活と文化のなかで重要な役割をもつことは今更改めて記す必要もないだろう。清少納言の「春はあけぼの」で始まる文章は、季節感が平安の昔から日本人の生活に大きな意味をもっていたことを教えてくれる。春の桜、夏の海水浴、秋の紅葉、冬の雪といったように、日本の生活と気候には季節を感じさせる特有のものがある。「俳句」「短歌」に「季語」が使われるなど、昔から日本人は「季節感」を大切にしてきた。

■ 積極的に季節感を取り入れているのは、男性より女性

季節感を感じるためにしていること(複数回答)では、「旬のものを食べる」が75%でトップ。4人に3人が「旬の食べもの」から季節感を感じている。次いで、「季節の行事を行う」(38%)、「季節限定のものを買う」(36%)、「季節が感じられるところへ旅行に行く」(31%)、「四季の花を育てる」(22%)だった。

「旬のものを食べる」は男性、女性とも首位であるが、男性は68%、女性は83%だった。また「季節限定のものを買う」「季節の行事を行う」においても、男性より女性の方が高い回答率を示しており、女性の方が積極的に季節感を楽しみ、様々なことをしていることがうかがわれる。

さらに「季節感をととても大切にしている」人は、幅広い分野で季節感を楽しんでいることが明らかになった。「食べ物」「行事」「旅行」「買物」はもちろんのこと、「パソコンの壁紙の変更」「部屋のインテリアを変える」「季節の挨拶状」など、ごく身近なところでも季節感を楽しんでいる。

■ 「栗、秋刀魚、松茸、梨」などの食材と「紅葉」から感じる「秋」「雪、霜、氷」や「衣服(コート、セーター)」「暖かい食べ物」「クリスマス」で感じる「冬」季節を感じることを具体的にあげてもらうと、「秋」を感じることは「栗、秋刀魚、松茸、梨」などの「秋の味覚」と、「紅葉」に集中した。以下「暑さが和らぐ、ひんやりしてくる」「空が高くなる/澄んだ空」など、空気の変化、景色の変化などが多かった。

そのほか、「風呂上りの風がとても気持ちいい」「町を歩く人のファッションが暖色系に変わっていく」「アメリカンフットボール開幕」などもみられた。

一方、「冬」を感じることは「雪/霜/氷」「北風/木枯らし」などの気象の変化と、「コート/セーター/マフラー/ジャケット」などの「服・ファッション」の変化、「鍋物/おでん/肉まん」などの「冬のメニュー」、「クリスマス」の「イベント」などがあがった。

そのほか「ココアが飲みたくなったとき」「熱燗、鍋、体が温まる食材が出回ると季節感を感じる」「夜景が遠くまで澄んで見えたとき」などもあげられ、各々で季節を感じる目安をもっているようだ。

季節感が薄らいでいると言われるものの、実に8割の人が季節感を大切にしていた。多くの人が味覚から季節感を体感しているが、秋や冬の季節を感じる事柄をみると、寒さや風、虫の鳴き声、空の色や高さなど昔と変わらず五感を使って感じているのがわかる。

また、若い人は「コンビニの店頭」や「メディア」などから、年配の人は「果物」や「植物」など自然のものから季節感を感じている人が多く、性別、年代別によるライフスタイルの特徴が季節感の感じ方にもあらわれているようだ。

豆知識

日本十二ヶ月の別称および原因

睦 月〔むつき〕

1月の別称

一年の始まりであり、もっとも大切な節目(段階)である正月。正月というのは、中国から伝わった言葉で、その年の新しい神様を迎え、五穀豊穡^{ごこくほうじょう}と家内安全を祈る行事のこと。

又古くは、魂^{たましいまつ}祭りと呼ばれ、大晦日に魂の霊が返ると信じられていた。

如 月〔きさらぎ〕

2 月の別称

正月も終わり、いよいよ本格的に一年が始動する時期。「如月」とは陰暦の呼称であり、「着物更に着る」「木更に生える」等の意味合いもある。

弥 生〔やよい〕

3 月の別称

春になり、萌え出た草花がいよいよ成長していくので、「いやおひ(弥生)月」と言うのが語源。「花見月」「桜月」とも言う。

卯 月〔うづき〕

4 月の別称

卯の花が咲く時期であることから「卯の花月」といわれる。また稲の種を植えるという意味から「植月」との説もある。

皐 月〔さつき〕

5 月の別称

陰暦の五月は現在の六月。田に早苗を植える時期なので「早苗月」が略され、「さつき」と呼ばれる。

かつて五月は「物忌み月」であるとされ、禁欲をする時期でもあったが病氣や薬を払う行事が行われていた。五月五日の端午の節句もその名残である。

水無月〔みなづき〕

6 月の別称

陰暦の六月は現在の七月に相当し、暑さが厳しく水泉が枯れ果ててしまうので「水無し月」と呼ばれる。又農作業をしつく(仕付く)してしまうので「みなしつく月」とも言われることもある。

文 月〔ふづき〕

7 月の別称

七夕の祝いのために貸す(提供する)文を開くため「文招月」とも言う。また稲穂が穂を含みつつあるから「含み月」とも、親や先祖の墓参りをするから「親月」とも言う。

葉 月〔はづき〕

8 月の別称

陰暦の八月は「葉月」というが、これは現在の九月上旬から十月上旬を指す。この時期木々の葉が落ちることから「葉落ち月」から由来している。また初めて雁が飛来する月であることから、「初来」、ほかに稲穂が張る「穂張り^{ほば}月^{づき}」が約されたものだという説もある。

長 月〔ながつき〕

9 月の別称

夜がようやく長くなる月「夜長月」を略してこう呼ばれるようになった。

稲作にちなんで「稲熟^{いねじゅく}月^{づき}」「稲刈^{いね}り月^{かづき}」「稲長^{いねなが}月^{つき}」等の言葉が変化したものと言われている。別名「菊月」ともいわれるほどなので、重陽^{ちやうよう}の節句^{せつぐ}が九月最大の行事であった。

神無月〔かんなづき〕

10 月の別称

日本全国の神々が出雲^{いづも}(旧国名・今の鳥取県の東部。雲州)の国に集まるため、神様がいなくなることから「神無月」という。しかし、家の中の「荒神^{あらがみ}さま」だけは留守番として残ることから、神社と無関係の行事に関しては盛んに行われる。ちなみに、出雲だけは神々が集まることから「神在り月」と呼ばれている。

霜 月〔しもつき〕

11 月の別称

霜が降りる時期のことから「霜降り月」が略され「霜月」になった。

師 走〔しわす〕

12 月の別称

この時期になると師(僧)が、各家を廻り、読経などの仏事を行うため師が忙しく走り廻るので「師馳^しせ月^{はつき}」がなまり略されて「師走」になった。

ビジネスマナー1 身だしなみの基本

社会人として、身だしなみは仕事をスムーズに処理するために大変重要である。仕事を進める上でも、身だしなみがきちんとしていれば意欲や誠意を感じる。社外の人であれば、まずその人を身だしなみで評価するといっても過言ではない。大切な仕事をまかせる時、身だしなみがきちんとしている人だったらきちんとした仕事をしてくれる、という印象を与える。

では、どのようなことに留意すれば良いのであろう。身だしなみを考える上で基本となるのは、清潔感である。服装だけではなく、頭髮や爪、ひげなど身体の清潔さを保つことが大切である。

● 服装

職場での服装は、あまり流行やブランドに左右されず、職場での地位や年齢に応じたものを選んだほうがいい。また、周囲に不快感を与えず、社風に合い、仕事をするのにふさわしい機能性のあるものを選ぶべきである。

男性	シワになったシャツは大変みっともないものである。きちんとアイロンがけされたもので、首まわりや手首のまわりに汚れが付いていたりしないようにする。また、ネクタイも選び方で印象が大きく変わってくる。スーツやシャツにあわせてセンスの良いものを選んだほうがいい。
女性	スカート丈があまり短いものは仕事場にはふさわしくない。年齢にあわせて品位の感じられるものがある。また、靴もあまりヒールの高いものは機能的ではなく印象もよくない。サイズのあった疲れにくい靴を選んだほうがいい。女性はアクセサリーをつける場合があるが、仕事のじゃまにならない程度の、センスの感じられるものをさりげなく身につけると良いであろう。
制服	汚れやほころび、ボタンのとれたところがないかを注意する。制服を着たまま外出するときは、行動や言動に特に注意する。制服を着て外出するということは、会社の「顔」が歩いているということ忘れてはいけない。

● 頭髮や爪

頭髮はきちんとまとまりのあるスタイルにしよう。毎日きちんと洗髪し清潔に保つ。女性であまり長いヘアスタイルの場合は、まとめたりしておいたほうが仕事をする上ではふさわしいといえるだろう。

爪が伸びていたり、爪の先に垢がたまっているような人は論外である。爪は短く整え清潔に保つ。また、マニキュアも派手なものは避け、透明か淡いピンクなどを用いる。

● 化粧

人に不快感を与えないために化粧はきちんとする。派手なものを避けるのはいうまでもないが、全く何もしないのではなく、明るく清潔感のあるすっきりとしたメイクをするように心がける。化粧の仕方で印象が変わるので気づきが必要である。

第二課

相 撲

相撲は、日本の国技つまり、日本特有の代表的な競技だ。野球と同じぐらい人気がある。歴史が古いというだけではなく、相撲の精神が日本人の国民性に合致しているからだ。相撲の一番大切な精神は「礼に始まって、礼に終わる」と言われ、「礼節を重んじる」ことが重視される。

上位の人を敬い、相手を尊敬する気持ちを大切にする。従って、勝負に勝っても、相手に対する思いやりから、顔や体でその喜びを表すことは避けなければならない。肉体的な強さを競うだけでなく、精神的にも充実した態度を示して、見る人にある種の感動を与えるのが相撲だ。

このため、競技の前の「仕切り」と、競技が終わった後の「お辞儀」による挨拶が最も重要な動作となっている。

相撲の競技をする人を「力士」、競技を「取り組み」という。プロの相撲を「大相撲」と呼ばれる。

直径5メートルほどの円い土俵の中で、二人の力士が技を競う。力士は髪を長く伸ばして、「まげ」と呼ばれるヘア・スタイルをしている。裸で腰に「まわし」をしめる。試合の進行と審判をする「行司」も昔からのきれいな着物を着ている。このように、相撲は伝統的な独特のスタイルと力士のりっぱな体格と力強さなどで、見て楽しいスポーツだ。

二人の力士が、土俵の上で押したり、突いたり、組み合って、勝負をする。土俵の中で、足の裏以外の体の部分が、先に土につくか、または、土俵の外に出ると負けだ。相撲には70種類の技(勝つ方法)がある。また、力士の地位を「番付」という。大相撲では、下から序の口、序二段、三段目、幕下、十両、幕内と上がっていく。幕内は「番付」の最上段の地位で、その中に序列があり、「横綱」をトップに、大関、関脇、小結、前頭となっている。この中で、大関、関脇、小結を三役、あるいは役力士と呼ぶ。

大相撲は1年に6回定期的に行われる。1回は、日曜日から次の次の日曜日までの15日間にわたって、それぞれ「場所」と呼ぶ。奇数の月に行われ、1月の初場所、5月の夏場所、9月の秋場所は東京で、3月の春場所は大阪市、7月の名古屋場所は名古屋市、11月の九州場所は福岡市で行われる。